

第3回 第6次総合計画審議会 議事録

日時：令和3年11月10日（水）

会場：ミラ・フード館 ホール・ミラ

1. 開会

沖津副会長：寒い中お集まりいただき感謝。今日もよろしくお願ひしたい。

2. 会長挨拶

小山会長：アンケート調査結果、非常に丁寧にまとめていただいた。

今日はグループでの議論が中心になろうかと思う。

すてきな村、住み心地のよい村とはどういうことか

⇒「住みやすい村」、「住み続けたい村」がキーワードだと思う。

マーケティングの手法を使って村民の意見を収集し、分析をすること大切。

この意見を使って、村をどう「リノベーション」していくかが重要。

しっかり議論していただきたい。

3. 議題

(1) 調査結果について

SCOP：(資料にもとづき説明)

- ・アンケート調査9～10月にかけて実施。半数以上の方から回答を得られた。

○人口動向について

- ・社人研の推計では、これからはゆるやかに人口が減少する時代
- ・目標人口に対し、目標を上回る良い実績で人口維持できている
- ・自然動態→自然減、社会動態→ここ数年転出入が均衡
- ・若者の転出年々増えている、若者の流出をどう抑えていくかが鍵
- ・これからは松本平全体で人口減。松本への都心回帰の動きも出てくる。
山形村の特徴であり、村の人口を支えてきた「郊外化」はこれからの人口減少時代では強みではなくなる可能性あり。

○村の総合評価

- ・「住みやすさ」特に評価されている。⇒愛着や誇りに繋がっている
- ・幸福度スコアの朝日村との比較

【住みやすさ】 山形村 57.8 朝日村 40.8

【誇りや愛着】 山形村 39.1 朝日村 49.5

【住み続けたい】 山形村 51.0 朝日村 54.9

住みやすさは山形村の方が良い結果となっているが、誇りや愛着・今後住み続けたいかという点においては朝日村の方が良い結果となっている。

→これからの山形村に必要なことは、村長公約にもある「住みがい」を作っていくこと。

村外から来た人達にも「住んで良かった」と思ってもらうためには…？

○満足度・重要度

・満足度の【評価できない、分からない】に修正あり

(村民が、何やっているか分からないと感じている内容。それ自体も課題。)

①多文化共生の推進

②貧困対策の推進

③消費者対策

④林業の推進

⑤雇用対策の推進

・赤い枠内：最も優先的に取り組むべき分野

・最も優先的に取り組むべき分野は、5年前調査の時と重なるものがある。(公共交通、道路整備など)

○分野別の現状と課題

【1. 保健・医療・福祉分野】

- ・医療の評価→福祉バスの補助、コロナの対応
病院が少ない、専門医なし
- ・課題→村民の健康管理意識低い
- ・地域福祉に関しては満足度低い

【2. 子育て教育】

- ・満足度高く、重要度も高い
- ・要望→中学校以上の子どもに対する意見多い
- ・小学校の児童は年々減っている
- ・地域との連携を活かせる、特色ある教育目指すには…？

【3. 生涯学習】

- ・スポーツ分野は評価高い、文化芸術分野は指摘多数
- ・施設の老朽化についても指摘。今ある施設をどう生かせるか？
- ・若い世代、働く世代を巻き込むためには？

【4. 農林業分野】

- ・農家以外も村の良いところとして農業を挙げている中で、不満の声も上がっている
- ・農家—非農家の間での温度差、農業のある村としての魅力をどう高めていくか
- ・耕作されない農地をどう生かしていくのか
- ・長いもののブランド化

【5. 観光・商工業・雇用分野】

- ・限られた観光資源もっと生かして
- ・村内に雇用がない＝若者が出て行ってしまう最大の要因
- ・産業を身近なところで作っていく

【6. 自然環境分野】

- ・環境をいかに守っていくかという点で村民の意識が低いのでは
→ごみが減っていない。(世の中的にはゴミは減っているはずだが…)
→リサイクル率低い

【7. 生活環境・インフラ分野】

- ・インフラは満足度の低い施策が並んでいる
- ・「住みやすさ」→インフラが整うことにより、もっと上がる
- ・地域差が多いという意見もあり
- ・村民の防災意識が弱い傾向がみられる。災害対策、災害に強い地域、レジリエンス（回復力）が求められる時代。

【8. 人権・自治・協働分野】

- ・多様性の求められる時代。特に村では外国人増えている
- ・人権問題に取り組む必要あり
- ・議員、村の管理職、自治会長等意思決定の場での女性登用率少ない。
- ・行政だけでは賄えない時代。いかに村民と行政が一緒になって進めていくかという点が課題。
- ・地域組織→昔のようにはいかない。地域組織、活動の在り方、新しい時代に合わせアップデートの必要あり。
- ・連絡班、2割強の住民は加入していない。
- ・自治体活動に積極的に参加したい人も少ない。どうするか。

(2) 調査結果を踏まえて、地域全体で伸ばすこと・改善することを考えよう

事務局：

【やること】

- ①資料をみんなで確認する
- ②各自、自分の考える今後10年で注力すべき方向性を発表する
- ③まとめ

～グループごと議論～

【まとめ】(別紙)

小山会長：「村民ひとりひとりが山形村に対してどういう帰属感を持っていけるか」ということが大きな問題。コロナが今までのことと新しいこれからのことを考える変わり目を生み出してくれているとも言える。何をリノベーションして求めていくか、ということも村民も考えていかなければいけない。サービスを受けるだけでなく、自分たちが何をできるのか、どういう風に求めていくのか。こういったことは世代間の違いが大きい。皆さんの考え方も進めていけるような施策を考えてもらいたい。

今日はそういったことを考えていただくきっかけ作りとして、良い機会だったので。

4. その他

事務局：

【メッセージツリーの実施報告】

- ・アンケートが届かなかった人や子ども達の見聞も取り入れたい。
- ・ツリーの制作を松本大学に依頼し、村内7か所に設置。たくさんの意見を書いていただくことができた。現在集計中。
- ・メッセージツリーはミラの1階に掲示している。
- ・いただいた意見は通信等で共有予定

【今後のスケジュールについて】

- ・第4回目の審議会12月中旬頃～1月にずれ込む可能性あり

【村づくり懇談会について】

- ・これまでの反省点を踏まえ、全課長が参加し、集約的にトレセン大ホールで実施予定。積極的なご参加をお願いしたい。

5. 閉会

沖津副会長：自分の意見しっかりと話していただければ良いと思う。ご苦労様でした。